

12月1日は「鉄の記念日」 釜石市内では鉄に関わる様々なイベントを開催！

「鉄の記念日」は、大島総左衛門（のち高任）が大橋で洋式高炉を建設し、安政4（1857）年に、日本で初めて鉄鉱石を用いて鉄の連続生産に成功したことに由来しています。

鉄のまちと言われる釜石市では、毎年「鉄の記念日」を中心とした前後の1週間を「鉄の週間」としており、今年度は特に「橋野鉄鉱山」が世界遺産登録から10周年を迎えたことから、鉄に関わる様々なイベントが開催されています。そのうち2つの企画展を紹介します。

■鉄の歴史館で1月12日まで開催中の「橋野鉄鉱山展」では、26点の関連資料と14点の解説パネルで構成され、見ごたえのある展示になっています。

橋野地域では高炉による製鉄が始まる前から、砂鉄を原料とした“たら製鉄”が盛んで「和山七ヶ山」と言われる鉄山があり、直近の分布調査で見つかった鉄滓を展示しています。

また、大橋高炉で原料となる磁鉄鉱の発見は1727（享保12）年ですが、その場所を示す「大橋磁石岩絵図」（市指定文化財）のレプリカや藩が作成した橋野鉄鉱山操業の予算書の下書きも展示されており、当時の製鉄事業の規模を感じさせます。

また、釜石市では、2006年から「橋野高炉跡範囲内容確認調査」を実施し、毎年エリアごとに発掘調査を進めており、同展では主に2019年以降の成果をパネルと出土品で総合的に紹介しています。

■釜石市郷土資料館では新釜石市制70周年を記念し、資料展「写真で見る一市四村合併70年」を1月25日まで開催しています。現在の釜石市が形成されて今年で70年、有料道路の開通、市場に水揚げされたあふれんばかりのサケ、高炉解体、観光船はまゆりの就航、世界遺産登録のお祝いなどなど…釜石市の様々な歴史について、約60点の写真パネルや年表などで振り返ることができます。

昭和初期、「釜石町」は製鉄所の事業拡張や水産業の発達から急速に成長し、1937（昭和12）年5月5日に「釜石市」となりました

（当時の人口は約4万人）。4年後の1941（同16）年には太平洋戦争が勃発。重要な工業都市だった釜石は1945（同20）年、米英連合軍などによる2度の艦砲射撃で壊滅的な被害を受けました。

戦後、釜石地域は混乱期にあったものの、鉄の需要増加による製鉄所の復興などで経済は上向き、人口も右肩上がりでした。そこに国の施策として市町村の合併が進められ、1955（同30）年4月1日、1市（釜石）4村（甲子、鵜住居、栗橋、唐丹）による新・釜石市が形づくられました。

“鉄がつなげたまち”的当時の人口は8万1000人余り。盛岡市に次ぐ県内第2の都市に躍り出て、

その後の約10年は市制の歴史でも最も人口が多く、まちの勢いが共有された期間とされています。

釜石の当時の様子を懐かしく見に来ている方も多く、三陸の豊かな地下資源を活用してきた地域の歴史や文化を伝える展示会に足を運んでみてはいかがでしょうか。

【お知らせ】

令和7年度

みちのく潮風トレイル × 三陸ジオパーク シンポジウム

～世界とつながる三陸地域の魅力と持続的発展を考える～

2026.1.31 sat. 13:00~16:30

久慈市文化会館アンバーホール 小ホール（岩手県久慈市川崎町17番1号）

編集後記：2億年を「200000000年」と表記すると印象が変わることに最近気づきましたが、読者の皆様はいかがでしょうか？イチ、ジュウ、ヒャク、、、9ケタ！とてつもない時間、という表現が続いて思い浮かんだところです。その頃に存在した「パンゲア大陸」の地球の画を初めて見たのですが、大陸同士の海岸線がちょうど合うような形になっている？と思ったこともあり、確かに「超大陸」で国境も分断もなく世界は一つだったという話に傾きました。ジオパークに携わってすぐに「ゴンドワナ大陸」は覚えたものの「パンゲア大陸」は初耳でした。

あら、（旧）日本はどこ？？

～と～



鉄の歴史館企画展



釜石郷土資料館企画展

三陸ジオパーク推進協議会

〒027-0072

岩手県宮古市五月町1-20

（宮古地区合同庁舎2階）

TEL:0193-64-1230

FAX:0193-64-1234

info@sanriku-geo.com

<https://sanriku-geo.com/>

Facebookはこちら

